

WTO非公式閣僚会合（スイス・ダボス）
（結果概要）

平成26年1月25日
経済局国際貿易課

1月25日（土曜日）、スイス・ダボス市内のシュバイツァーホフ・ホテルにおいて、スイス主催WTO非公式閣僚会合が開催されたところ、概要以下のとおり。

1 出席者（21か国・地域及びWTOから出席）

- ・スイス（議長）：シュナイダー・アマン経済大臣
- ・WTO：アゼベド事務局長及びバシール一般理事会議長
- ・我が国：茂木経済産業大臣及び林農林水産大臣
- ・米国：フロマン通商代表
- ・EU：デ・ヒュフト欧州委員
- ・インドネシア：ギタ商業大臣
- ・上記の他、豪州、カナダ、中国、コロンビア、コスタリカ、香港、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ナイジェリア、ノルウェー、ロシア、南アフリカ、トルコ、ウガンダが出席。

2 議論の概要

- (1) 今次会合では、昨年12月にインドネシアで行われた第9回WTO閣僚会議（MC9）において妥結した「バリ合意」を受け、「バリ合意」の評価とドーハ・ラウンド交渉（DDA）の残された課題に関する今後の作業計画について議論が行われた。
- (2) 「バリ合意」については、「バリ合意」が妥結したことによりWTOに対する信頼回復に寄与したこと及び合意事項を着実に実施に移していくことが重要であることについては多くのメンバーから言及があった。
- (3) DDAの残された課題に関する作業計画については、バリでの決定を踏まえ早急に議論を開始すべきであり、農業、非農産品市場アクセス、サービスといった困難な課題を避けるべきではないとの意見が表明され、アゼベド事務局長からは、分野間の相互関連性を考慮すること、プロセスの透明性及び包含性が重要であること、実現可能性と野心のバランスに注意を払うべきこと等につき発言があった。
- (4) 我が国からは、ポイント以下の通り発言した。
 - ・茂木経産大臣：貿易円滑化協定の早期採択とともに、ITA拡大、新サービス貿易協定（TiSA）、環境物品といった有志国による交渉（プルリ）の推進の重要性等を呼び掛けた。
 - ・林農林大臣：WTOにおける農業分野の今後の活動について、最近の各国の農政や農産物貿易の実態を踏まえ、食料安全保障を確保し、「多様な農業の共存」を実現するためのルール作りを目指すべきと主張。

（了）